

羽生市議会議員 ゼロからの挑戦！～第2章～

# 中島なおき

無所属



# 動かせ羽生！



ふじみ野市高畑市長から  
政治姿勢と首長哲学を学ぶ



行田市石田堤にて  
のぼうの城にあやかって



時事通信社の記者の前で  
羽生市政について熱く語る！



羽生さわやかマラソン大会にて  
招待選手で参加した埼玉栄高の後輩たちと



岩舟町の株グローバルエナジーを視察  
翼のない飛行艇が大空を舞う！  
物理の常識を覆す技術に驚愕しました。

## 平成25年度羽生市一般会計予算



# 161億6,000万円が賛成多数で可決

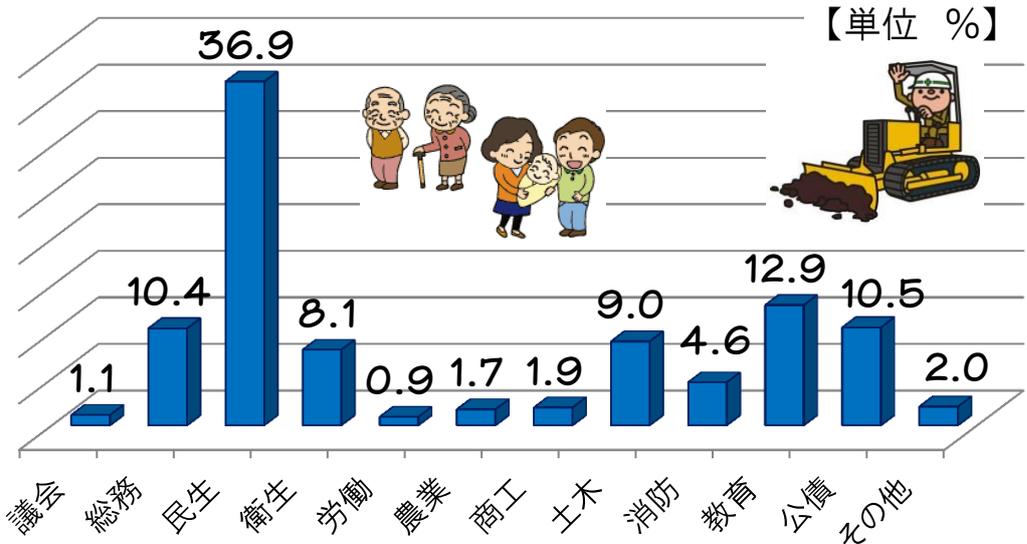


2月26日から3月22日の日程で3月定例会が開かれました。上程された39議案のうち、もっとも重要な議案は一般会計と7つの特別会計の25年度予算案です。一般会計予算案の複数の事業について、多くの議員から大変に厳しい指摘がなされ賛否が拮抗、これまでになく行政と議会が綱引きする激しい定例会になりました。慎重な審査と協議の結果、25年度の3つの事業について「予算の凍結も含め、慎重に対応していきたい。」という行政の言質を取り、中島は賛成の意思表示をしました。（詳細は中面へ！）

# H25年度羽生市一般会計予算歳出構成比

年度予算のうち、進む少子化、高齢化、そして広がる福祉サービスニーズを受け、民生費の割合が突出していることがわかります。

しかし、平成25年度は前年度と比較すると、マイナス0.6%、金額にして約3500万円減額しています。



また、10年前と比較し、道路の維持、新設、改良、公園管理などに使われる土木費が占める割合は半分に減少しています。そして、何かと批判を受けることが多い議員報酬や政務調査費などに使われる議会費は議員14名の報酬、議会事務局職員5名を含んでも年間予算に占める割合は約1%です。歳入のうち、皆さんに納めていただく市税を主とした55.8%は自主財源ですが、44.2%は地方交付税交付金、国庫支出金、県支出金、市債などの依存財源となっています。

## 3月定例会中島なおき23回目の一般質問

防災意識の向上という視点から質問を行いました。掲載は紙面の都合上、質問、答弁とも大幅に割愛しています。タイムラグは生じますが、中島の議会での発言は「羽生市議会会議録」「羽生市議会議員 5番 中島直樹(無所属)の議会発言録」でご確認ください。



中島なおき 発言録

検索

### ① 災害に強いまちを目指して

**Q** 羽生市の地下に現在のところ活断層は見つかっていない。関東平野のほぼ中央に位置していることから山や谷はなく、豪雪地帯でもなく、自然災害が非常に少ないまちである。多くの市民は実際に大きな自然災害を経験したことがないがゆえ、災害に対する意識が低く、行政に対する依存心が強い傾向がある。災害に対しては自助、共助の理念が極めて重要である。市は積極的な啓発活動を行うべきと考えるが見解を伺う。

また、市民、地域、市役所の役割を明確にするため防災基本条例を制定するとともに、ライフライン確保のため災害時協力井戸の登録制度を設けるべきと考えられるが見解を伺う。

東日本震災で被災した多くの自治体では支援、応援を受ける受援力が不足、欠如していることが露呈した。羽生市は真の災害に強いまちを目指して実効性の高い具体的な受援計画を策定しておくべきと考えられるが見解を伺う。

**A** 東日本大震災発災以降、市民の災害に対する意識は確実に向上していると考えられる。地域の防災訓練や講演会などを通じて積極的に啓発活動を行っていききたい。まちづくり自治基本条例や地域防災計画を見極めつつ防災基本条例の制定に向け研究を進めていきたい。ライフラインの確保のため自治会の協力を得ながら、災害時協力井戸の登録制度を設けたい。現在、社会福祉協議会で受援計画を策定している。整合性を見極めつつ計画策定の研究を進めていきたい。





# 平成25年度予算案について考える

おもて面に記載したとおり、平成25年度一般会計予算案については、これまでになく、多くの議員から異を唱える声があがりました。私中島も異を唱えた一人です。異を唱えた議員一人ひとりが着眼した事業や理由は全て同じではありませんが、私、中島の視点から以下、ご説明させていただきます。

羽生インター周辺の開発、老朽化した清掃センターの対応、岩瀬区画整理事業地の整備、羽生総合病院の市内移転。どれも一朝一夕には解決できない難しい懸案であることは、私も十分に認識をしています。しかし、羽生市が必ず解決しなければならぬ大変重要な懸案です。

河田市政が発足し、間もなく8年目を迎えますが、羽生総合病院の市内移転以外は一向に解決の糸口が見いだせません。

そういった中、2月20日の埼玉新聞の一面に、行田、鴻巣、北本の3市でゴミ処理行政の広域化を進める旨の記事が掲載されました。これは、



冒頭に記した羽生市政の重要懸案に大きく関係することであり、このゴミ処理広域化の枠組みに羽生市が入れる

るか否かは市の将来に大変大きな影響を及ぼします。

こうしたことを背景に、平成25年度予算案に①ゆるキャラさみっとin羽生で300キャラを集めギネス申請(三百六十万円)、②ゆるきゃらランドと称するゆるキャラ展示館の設立(五百万円)、③カリフォルニア州ミルブレイ市との友好都市を結ぶための調査費(二百七万五千円)が計上されました。私はこれらの予算計上を見て

羽生市が現実問題を直視せず、地に足がつかない行政運営を行っているのでは? 話題作りが先行されてしまっているのでは? という強い疑念にかられました。こういったことは、市議会議員としてしっかりと質さなければなりません。



議案に対する調査や、本会議場での質疑、常任委員会での質疑に対する答弁を聞き①、②、③の事

業内容が非常に短絡的に感じられたともに、税金を投じてまで行わなければならないほどの有効性を見出すことが、私には出来ませんでした。

この三つの事業について疑問を感じるから単に予算案に反対の意思表示をするというだけでは建設的ではありません。自分が反対をしただけで、事業が進んでしまいません。また、予算案の否決を他の議員に働きかけるといいうのも建設的ではありません。議会で予算案を否決するという事は、市民生活や市役所の仕事に重大な影響を及ぼすとともに、予算の組み直しや事業計画の見直しにより数千万円という新たな経費が必要となることも見込まれます。総額約一千万円の事業予算に反対のため、予算案を否決し、数千万円の経費をかけるのは私の望むところではありません。

年度末という限られた時間の中で、予算案の否決ではなく、最低限、予算案に議会での意思を反映させるにはどうし

たら良いのか? 考えた結果、数人の先輩議員とともに、本会議場での質疑や常任委員会の場で事業の問題点を厳しく指摘をし、上段の①、②、③の事業について「待った」をかけることでした。そして、再三の協議の結果、「予算の凍結も含め、慎重に対応していきたい。」という行政から明確な言質をとるに至りました。



しかし、定例会において、平成25年度予算案が賛成多数で可決されたことは事実です。私を含め複数の議員が厳しく指摘した事は、何ら法的拘束力はありません。法的拘束力はありませんが、羽生市議会への強い意向として、必ずや河田市長をはじめとする羽生市行政執行部に重大に受け止めていただけたと理解しています。

そして羽生市には、目先の話題作りに夢中になるのではなく、市政の重大懸案解決に向け、腰を据えた実効性のある対応策を打ち出してくることを強く、強く望みます。



# 平成25年度 **新事業を一挙公開!**

- 消防ポンプ車の更新【1900万円】 ●原付バイクオリジナルナンバープレート作成【55万円】
- 消防査察車の更新【100万円】 ●日光脇往還ジオラマ作成 ●市体育館床再生工事【570万円】
- 消防救急無線デジタル化の基本実施設計【700万円】●川俣公民館耐震等改修工事【3800万円】
- がん検診の推進(子宮頸がん HPV 検査含む)【4962万円】 ●市勢要覧の作成【430万円】
- 産業文化ホール大規模改修工事(H25～26年度継続事業)【5億500万円】
- 東中学校 A 棟大規模改造等工事(太陽光発電装置設置含む)【3億2500万円】
- 山梨県富士河口湖町との交流の推進【14万円】 ●太陽光発電施設の設置【2億円】
- 羽生北小2号館大規模改修工事实施設計【790万円】
- 中央公園陸上競技場グラウンド改修【1580万円】
- 特定規模電気事業者(PPS)の導入【▲860万円】
- 新郷第一小学校屋内運動場改修工事【2400万円】



- パスポート事務の開始(県からの権限移譲)10月から開始予定【200万円】
- インフルエンザ予防ワクチン接種費用助成【1600万円】  
(0歳から中学生までが対象 ※子育て支援の羽生市独自施策)

※ 上記の新事業は全てではありません。目立った事業を掲載しています。

平成22年12月定例会の中で「課税標識(原付ナンバープレート)の変更について」、平成23年12月定例会の中で「図書館の運営方針と基本計画について」を市政に対する一般質問で取り上げました。若干の時間を要しましたが、平成25年度に事業として予算化されました。

## 【中島なおき(直樹)の生きざま】

- 昭和47年11月生まれ(40歳) 身長184センチ 体重75キロくらい 血液型 A型 さそり座
- 埼玉栄高校普通科 日本福祉教育専門学校社会教育学科 日本大学法学部政治経済学科卒業
- 神奈川県内の児童福祉施設勤務を経て、鴻巣市社会福祉協議会職員となる
- 平成18年(33歳)埼玉県内の若手地方議会議員有志主宰の「若手政治家養成塾」へ入塾
- 平成19年(34歳)正真正銘「地盤 看板 カバンなし」から羽生市議会議員一般選挙に単身挑み初当選
- 平成23年(38歳)羽生市議会議員一般選挙に2度目の立候補 現職無所属候補のほとんどが前回よりも票を落とす中、唯一得票を大きく伸ばし再選を果たす
- 所属:第2期若手政治家養成塾副代表 NPO法人地方議会制度研究センター副代表理事 青年地方議員の会会員
- 趣味:釣り 読書 家庭菜園 写真 ■特技:ギター弾き語り バasketボール ハンドボール
- 家族:保育士の妻 長女11歳 次女8歳



## **ご注意ください! 事務所の電話番号が替わりました。**

通信費の見直しにともない、事務所の電話、電話番号を替えました。最近話題の据え置き型のPHSです。番号は下段に掲載しました。若手政治家養成塾事務局の電話も兼ねています。

### ご意見・ご感想大募集

みなさんの声を直接市政に反映させたいと考えております。苦情や批判、要望だけではなく建設的なご意見、ご提案をお聞かせください。

【事務所】〒348-0071 羽生市南羽生 4-17-2 ☎ 070-6526-8612 Fax 562-4231

✉:japanist0422@live.jp (匿名の連絡には対応できません。)



このレポートは、他人に委ねる事無く、毎回、中島本人が直接皆様にお届けしています。